



吉崎別院便り

バラバラでいっしょ！

になれるところ

夏の御文永代経を勤修

蓮如上人絵解き説教

6月24、25日の二日間「夏の御文永代経」が勤まりました。法要では、三部経の読経と蓮如上人が明心7年にお書きになった『夏の御文(げのおふみ)』の拝読があり、参詣された延べ80人のご門徒が心静かに拝聴しました。法話の講師には、昨年に引き続き榊野明仁師(岡崎教区本澄寺住職)をお迎えし、上人のご生涯と、吉崎ご教化のご苦労を琵琶の音色とともに語られました。参詣者からは日常生活で気づかされた質問や子や孫に仏法を伝えることへの意見などが飛び交い、法座は寄合・談合の場へ転じていきました。お聴聞に來られた日野暁洋さん(小松市・蓮光寺住職)は「現代は、『生かされている』という感覚が希薄化しすぎている。子供たちに大切なことを伝える難しさを痛感している。」と語りながらも、質疑応答に熱心に耳を傾け、メモをとっている姿が印象的でした。



琵琶の弾き語り伝える榊野師



有縁の参詣者一同



ご絵伝 腹ごもりのお聖教



ご絵伝 嫁着しのお面